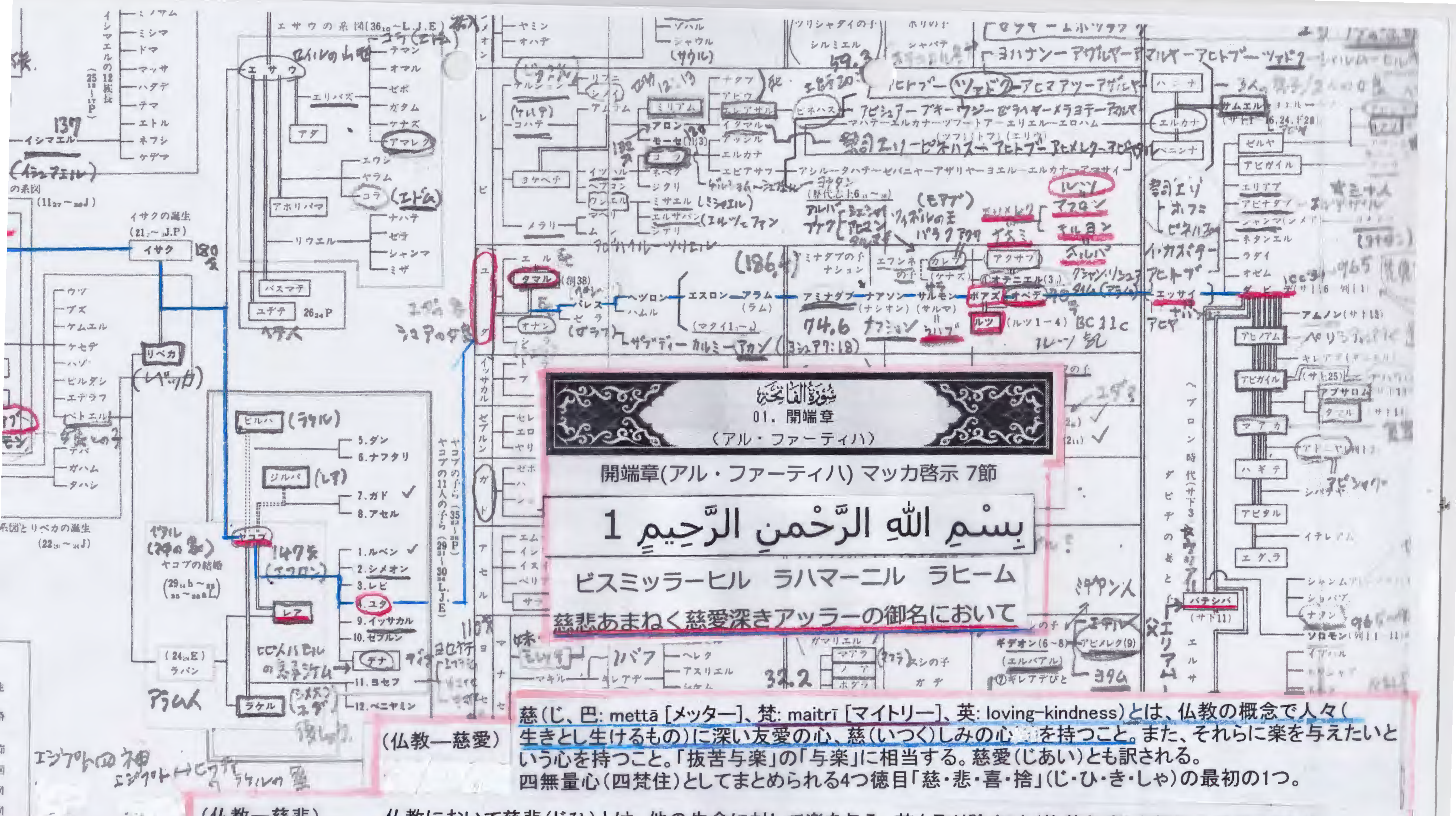


エサウの系図(36₁₀~L.J.E)
エサウ
エリパズ
テマン
オマル
ゼポ
ガタム
ケナズ
アマレク
アダ
エウシ
ヤラム
コラ
(エドム)
アホリバマ
リウエル
ナハテ
ゼラ
シャンマ
ミザ
バスマテ
ユデテ
イシマエル
イシマエルの12族長
ミシマ
ドマ
マッサ
ハダデ
テマ
エトル
ネフシ
ケデマ
イサクの誕生
イサク
リベカ
ウツ
ブズ
ケムエル
ケセデ
ハゾ
ピルダシ
エデラフ
ベトエル
テバ
ガハム
タハシ
ビルハ
(ラケル)
5.ダン
6.ナフタリ
ジルパ
(レア)
7.ガド
8.アセル
ヤコブの結婚
1.ルベン
2.シメオン
3.レビ
4.ユダ
9.イッサカル
10.ゼブルン
デナ
11.ヨセフ
12.ベニヤミン
レア
ラケル
ラバン
ヤコブの子ら・ヤコブの11人の子ら
ユダ
イッサカル
ゼブルン
ガド
アセル
ナフタリ
エル
タマル
オナン
シラ
ペレヅ
ゼラ
ヘヅロン
ハムル
エスロン
アラム
アミナダブ
ナアソン
サルモン
ボアズ
オベデ
ルツ
エッサイ
ダビデ
ケハテ
アムラム
ミリアム
アロン
モーセ
コラ
ネペグ
ジクリ
ウジエル
ミシャエル
エルザパン
シテリ
エレアザル
ナダブ
アビウ
イタマル
アッシル
エルカナ
エビアサフ
ピネハス
アビシュア ブキ ウジ ゼラヒヤ メラヨテ アマリヤ
アヒトブ ツァドク アヒマアツ アザルヤ
ヨハナン アザルヤ アマルヤ アヒトブ ツァドク
ハンナ
エルカナ
サムエル
ペニンナ
ゼルヤ
アビガイル
エリアブ
アビナダブ
シャンマ
ネタンエル
ラダイ
オゼム
アムノン
アヒノアム
キレアブ
アビガイル
アブサロム
タマル
マアカ
アドニヤ
ハギテ
アビタル
シェパテヤ
イテレアム
エグラ
バテシバ
シャンマ
ショバブ
ナタン
ソロモン
イブハル
ヘブロン時代
ダビデの妻と子
エルサレム
ギデオン
アビメレク
ヨタム
エルバアル
ギレアデびと
ヘレク
アスリエル
ナオミ
エリメレク
マフロン
キルヨン
オルパ
ルツ
(モアブ)
カレブ
アクサ
オテニエル
エフンネ
ヤミン
オハデ
ゾハル
シャウル
(サウル)
シルミエル
シャパテ
ヨケベデ
メラリ
イツハル
ヘブロン
ウジエル
マヘリ
ムシ
ゲルション
リブニ
シメイ
(ケハテ)
コハテ
アムラム
ルベン
レ
ビ

سورة الفاتحة
01. 開端章
（アル・ファーティハ）

開端章(アル・ファーティハ) マッカ啓示 7節

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمنِ الرَّحِيمِ 1

ビスミッラーヒル　ラハマーニル　ラヒーム

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において

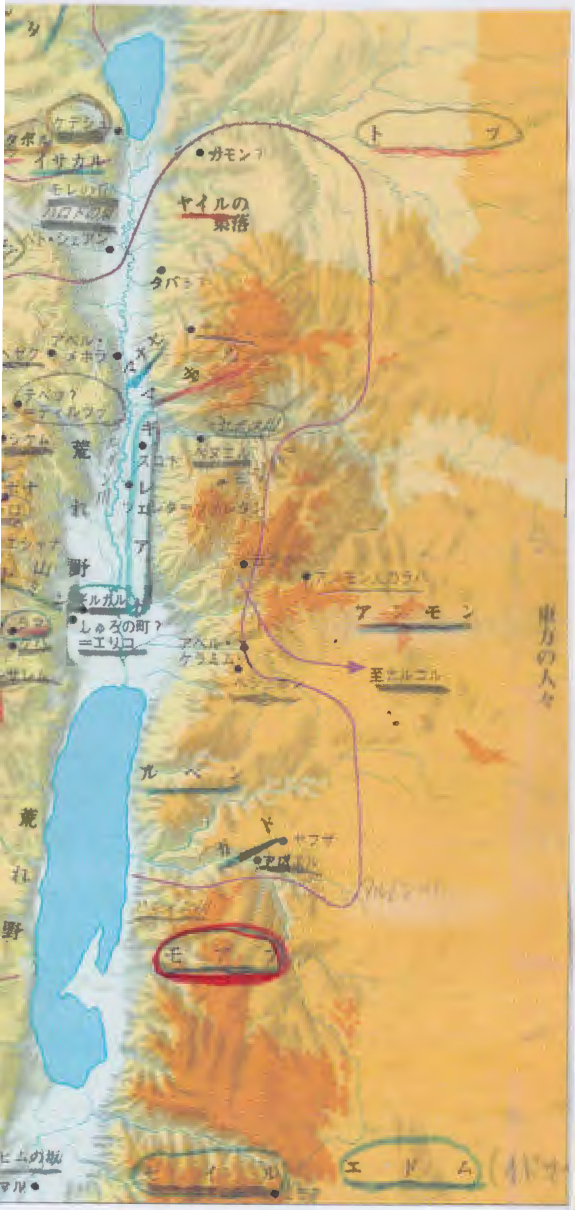
（仏教—慈愛）

慈(じ、巴: mettā [メッター]、梵: maitrī [マイトリー]、英: loving-kindness)とは、仏教の概念で人々(生きとし生けるもの)に深い友愛の心、慈(いつく)しみの心を持つこと。また、それらに楽を与えたいという心を持つこと。「抜苦与楽」の「与楽」に相当する。慈愛(じあい)とも訳される。
四無量心(四梵住)としてまとめられる4つ徳目「慈・悲・喜・捨」(じ・ひ・き・しゃ)の最初の1つ。

（仏教ー慈悲）
Wikipedia

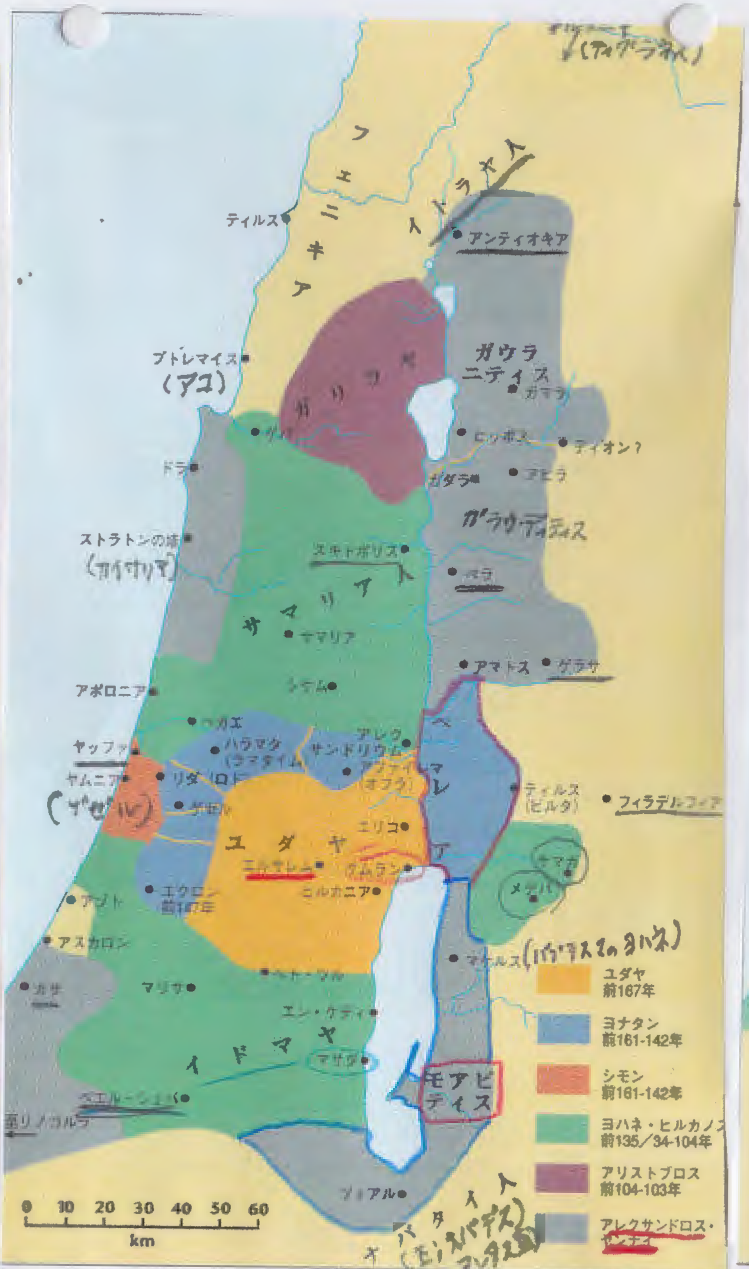
ーリ語	मेत्ता (Mettā)
ンスクリット語	मैत्री (Maitrī)
ット語	byams pa
マ語	မေတ္တာ [mjɪʔtà] ミッター
国語	慈 (拼音: Cí)
語	Loving-kindness
ール語	មេត្តា

仏教において慈悲(じひ)とは、他の生命に対して楽を与え、苦を取り除くこと(抜苦与楽)を望む心の働きをいう
一般的な日本語としては、目下の相手に対する「あわれみ、憐憫、慈しみ」(mercy) の気持ちを表現する場合に用いられる。
慈悲は元来、4つある四無量心(四梵住)の徳目「慈・悲・喜・捨」(じ・ひ・き・しゃ)の内、最初の2つをひとまとめにした用語・概念であり、本来は慈(いつくしみ)、悲(あわれみ)と、別々の用語・概念である[1]。
慈はサンスクリット語の「マイトリー(maitrī)」に由来し、「ミトラ(mitra)」から造られた抽象名詞で本来は「衆生に楽を与えたいという心」の意味である。
悲はサンスクリット語の「カルナー」に由来し、「人々の苦を抜きたいと願う心」の意味である。大乗仏教においては、この他者の苦しみを救いたいと願う「悲」の心を特に重視し、「大悲」(mahā-karunā)と称する。
これはキリスト教などのいう、優しさや憐憫の想いではない。仏教においては一切の生命は平等である。楽も苦も含め、すべての現象は縁起の法則で生じる中立的なものであるというのが、仏教の中核概念であるからである[1]。


ケデシュ
イサカル
ガモン？
トブ
ヤイルの集落
タバテ
アベル・メホラ
スコト
アモン人のラバ
アモン
しゅろの町？＝エリコ
ヘシュボン
ルベン
アロエル
モアブ
エドム
東方の人々
荒れ野

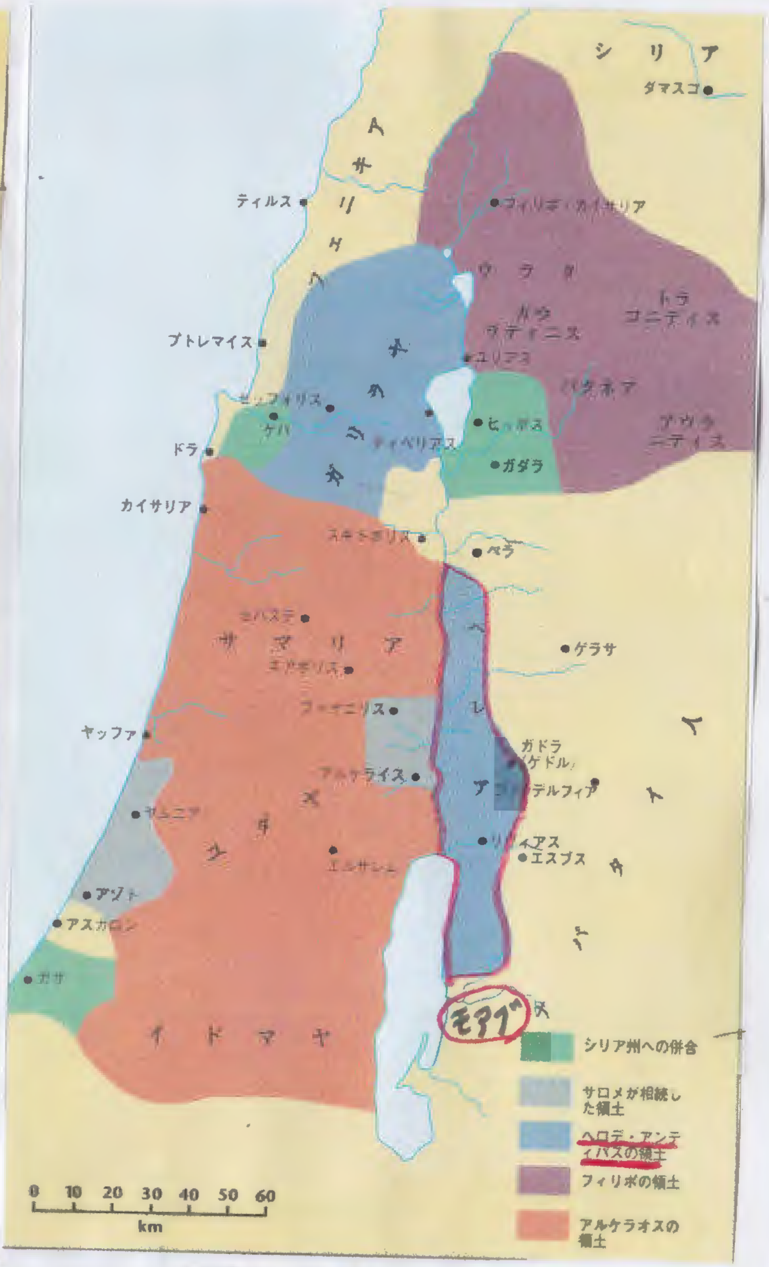
↓ミディアン（アラブ）

士師記の時代（ルツ記）
BC11c.


（ティグラネス）
フェニキア
イトラヤ人
ティルス
アンティオキア
プトレマイオス
（アコ）
ガリラヤ
ガウラニティス
ガマラ
ヒッポス
ディオン？
ガダラ
アビラ
ガラウディティス
ドラ
ストラトンの塔
（カイサリア）
スキトポリス
ペラ
サマリア
アマトス
ゲラサ
アポロニア
シケム
ガザラ
ハラマタ（ラマタイム）
アレクサンドリウム
アフライ（オフラ）
ヤッファ
ヤムニア
（ザザル）
リダ（ロド）
ゲゼル
ユダヤ
エリコ
エルサレム
クムラン
エクロン 前147年
ヒルカニア
ペレア
ティルス（ヒルタ）
フィラデルフィア
ヤマガ
メデバ
アゾト
アスカロン
マケルス（バプテスマのヨハネ）
ガザ
マリサ
ベト・ツル
エン・ゲディ
イドマヤ
マサダ
ベエル・シェバ
モアビティス
至リノコルラ
ゾアル
ナバタイ人
（王；アレタス4世）
ユダヤ 前167年
ヨナタン 前161-142年
シモン 前161-142年
ヨハネ・ヒルカノス 前135／34-104年
アリストブロス 前104-103年
アレクサンドロス・ヤンナイ
0 10 20 30 40 50 60
km

アレクサンドロス・ヤンナイの王国（ハスモン王朝）

BC 103-76


シリア
ダマスコ
ティルス
フェニキア
フィリポ・カイサリア
イトラヤ
ガウラニティス
トラコニティス
プトレマイオス
ガリラヤ
ユリアス
バタネア
アウラニティス
セッフォリス
ゲバ
ティベリアス
ヒッポス
ガダラ
ドラ
カイサリア
スキトポリス
ペラ
セバステ
サマリア
ゲラサ
ファサエリス
ヤッファ
アルケライス
ガドラ（ゲドル）
フィラデルフィア
ペレア
ヤムニア
ユダヤ
エルサレム
リビアス
エスブス
アゾト
アスカロン
ガザ
イドマヤ
ナバテア
モアブ
シリア州への併合
サロメが相続した領土
ヘロデ・アンティパスの領土
フィリポの領土
アルケラオスの領土
0 10 20 30 40 50 60
km

ヘロデ大王の死後
BC4～

箴言

31.01 マサの王レムエルが母から受けた戒めのことば。
31.02 私の子よ、何を言おうか。私の胎の子よ、何を言おうか。私の誓願の子よ、何を言おうか。
31.03 あなたの力を女に費やすな。あなたの生き方を 王たちを消し去る者にゆだねるな。
31.04 レムエルよ。酒を飲むことは王のすることではない。王のすることではない。「強い酒はどこだ」とは、
君子の言うことではない。
31.05 酒を飲んで勅令を忘れ、すべて悩む者のさばきを曲げるといけないから。
31.06 強い酒は滅びようとしている者に与え、ぶどう酒は心の痛んでいる者に与えよ。
31.07 彼はそれを飲んで自分の貧しさを忘れ、自分の苦しみをもう思い出さないだろう。
31.08 あなたは口のきけない者のために、また、すべての不幸な人の訴えのために、口を開け。
31.09 口を開いて、正しくさばき、悩んでいる人や貧しい者の権利を守れ。

＊ ＊

31.10 しっかりした妻をだれが見つけることができよう。彼女の値うちは真珠よりもはるかに尊い。
31.11 夫の心は彼女を信頼し、彼は「収益」に欠けることがない。
31.12 彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。
31.13 彼女は羊毛や亜麻を手に入れ、喜んで自分の手でそれを仕上げる。
31.14 彼女は商人の舟のように、遠い所から食糧を運んで来る。
31.15 彼女は夜明け前に起き、家の者に食事を整え、召使いの女たちに用事を言いつける。
31.16 彼女は畑をよく調べて、それを手に入れ、自分がかせいで、ぶどう畑を作り、
31.17 腰に帯を強く引き締め、勇ましく腕をふるう。
31.18 彼女は収入がよいのを味わい、そのともしびは夜になっても消えない。
31.19 彼女は糸取り棒に手を差し伸べ、手に糸巻きをつかむ。
31.20 彼女は悩んでいる人に手を差し出し、貧しい者に手を差し伸べる。
31.21 彼女は家の者のために雪を恐れない。家の者はみな、あわせの着物を着ているからだ。
31.22 彼女は自分のための敷き物を作り、彼女の着物は亜麻布と紫色の撚り糸でできている。
31.23 夫は町囲みのうちで人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。
31.24 彼女は亜麻布の着物を作って、売り、帯を作って、商人に渡す。
31.25 彼女は力と気品を身につけ、ほほえみながら後の日を待つ。
31.26 彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。
31.27 彼女は家族の様子をよく見張り、怠惰のパンを食べない。
31.28 その子たちは立ち上がって、彼女を幸いな者と言い、夫も彼女をほめたたえて言う。
31.29 「しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはそのすべてにまさっている」と。
31.30 麗しさはいつわり。美しさはむなしい。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。
31.31 彼女の手でかせいだ実を彼女に与え、彼女のしたことを町囲みのうちでほめたたえよ。

＊ ＊

シラ書

26.01 良い妻を持った夫は幸せ／彼の寿命は二倍に伸びる。
26.02 健気な妻は夫を喜ばせ／彼は、平穏無事に生涯を全うする。
26.03 良い妻は良い分け前／主を畏れる者に分け前として与えられる。
26.04 金持ちでも貧乏でも、彼の心は豊かで／どのような時も顔は晴れやかだ。
26.05 私の心は三つのものに不安を感じ／四つ目のものには、顔を向けるのさえ恐ろしい。／
町の人々からの中傷、暴徒の群れ／誹謗。これらはすべて、死よりも耐え難いものだ。
26.06 女どうしの嫉妬は、心痛と悲嘆の種／舌の鞭はこれらすべてに関わる。
26.07 悪妻は、ぐらぐら揺れる軛／彼女を制しようとするのは／さそりをつかもうとするに等しい。
26.08 酒飲みの妻は、激しい怒りを招き／その醜態を隠さない。
26.09 女の淫らな性格は、目のつり上がり具合と／流し目で、分かるものだ。
26.10 強情な娘には、見張りを厳重にせよ。／さもないと、手ぬるいと見て／それを利用しないとも限らない。
26.11 厚かましい目つきに警戒せよ。／彼女がお前に対して過ちを犯しても、驚くな。
26.12 喉が渇いた旅人が口を開けて／手当たりしだいにどんな水でも飲むように／どんな杭の前にも
しゃがみ込み／矢に向かって矢筒を開く。
26.13 妻の魅力は夫を喜ばせ／その賢さは、夫を健やかにする。
26.14 口数の少ない妻は主からの贈り物／作法を身に着けた妻は何ものにも代えられない。
26.15 慎み深い妻は魅力に溢れ／自制心のある妻の価値は計り知れない。
26.16 よく整えられた家にいる良い妻の美しさは／主がおられるいと高き所に昇る太陽
26.17 すらりとした体の上の顔の美しさは／聖なる燭台の上に輝く灯。
26.18 しっかりしたかかとの上に伸びる美しい脚は／銀の土台の上に据えられた黄金の柱。
26.19 〔子よ、お前の若い盛りに、健康に心がけ／余計なことに力を注ぐな。
26.20 平地をくまなく巡って／所領とする肥沃な土地を探し／お前の素性の良さを信頼して、自分の種を蒔け。
26.21 そうすれば、お前の子孫は生き長らえて／素性の良さへの確信を保ち、大いに繁栄する。
26.22 商売女は、唾のようなものとされ／人妻は、相手の男にとって、死の塔と見なされる。
26.23 律法に背く者には、不信心な妻が与えられ／主を畏れる者には、敬虔な妻が与えられる。
26.24 恥知らずな女は、不名誉な生活にうつつを抜かし／上品な娘は、夫を前にしても恥ずかしがる。
26.25 強情な女は犬に等しいものと見なされ／貞淑な女は、主を畏れる。
26.26 夫を尊敬する女は／誰からも知恵ある者と見られるが／思い上がりのゆえに夫を軽蔑する女は／不信心な
として皆の評判となる。／良い妻を持つ夫は幸せである。／彼の寿命は二倍に伸びるからだ。
26.27 甲高い声のおしゃべり女は／戦場で敵を敗走させる／進軍ラッパのようなものと見られ／戦場と同じ生活をす
どのような人の魂も／戦乱の中で生涯を送るようなものだ。〕